

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol. 77

「清流とほたる 砥部焼とみかんの町」

愛媛県 砥部町長
なかむら つよし
中村 剛志



砥部町は、愛媛県の中央に位置し、いにしへのロマンを感じる遺跡群や伝統文化・工芸など、現在・過去と未来が繊細にからまり織りなす「アートの里」です。

北部地域は、中央を流れる砥部川沿いに南北に開け、江戸時代以降、焼き物の町として名をなしました。230 余年の歴史を持つ国の伝統的工芸品「砥部焼」の産地で、100 余りの窯元が焼き物の里の風情を出しています。

この地域には、西日本屈指の規模を誇る県立「とべ動物園」や遊びと創造のシンボル「えひめこどもの城」などがあります。

南部地域は、豊かな森林資源や自然景観が美しい山間地域です。中央を走る玉谷川の流れが作り出した仙波溪谷や、清らかな水の源流、伊予の西石鎚とも呼ばれる権現山などの景勝地があり、初夏には川沿いで天然のホタルが乱舞し、幻想的な世界を楽しむことができます。

話は変わって、重信川の砥部側には、その伏流水を利用する泉で、別名、鏡泉（かがみいずみ）と呼ばれる「赤坂泉（あかさかいずみ）」があります。

昔このあたりでは、たびたび干ばつが起こり、水をめぐる争いが起こっていました。

明和 8（1771）年の大干ばつでは、重信川下手の 5 カ村と上手の麻生村とが、矢取川の河原で大乱闘となり、この責任を一身に引き受け、処刑となったのが下麻生村の組頭・窪田兵右衛門で、義民として伝えられています。

泉は、天明元（1781）年に工事を始め、難事業の末、10 年後の寛政 5（1793）年に完成し、農業用水が満たされました。

その後、昭和 33 年に、水が不用なときには下手の水門から重信川に放流し、必要なときには重信川から引き込むように樋管が作られました。

現在は、赤坂桜づつみ公園として整備され、春は桜の名所として、夏は親水公園として訪れる人々のやすらぎの場となっています。

本町では、合併を記念して、平成 17 年から町内に点在する自然・歴史・文化、砥部焼に関わる 53 ポイントを巡るスタンプラリー『陶街道 53 次』をスタートさせました。

ポイントには、数千年前の地殻運動によってできた地質学上貴重な資料で、国の天然記念物に指定されている「衝上（しょうじょう）断層」（砥部川）や一等橋の中では、日本で最初に造られた木造のアーチ橋「神の森大橋」（玉谷川）も含まれています。

ぜひ一度、お訪ねください。



重信川の伏流水が作り出した澄んだ水が湧き出る赤坂泉



現在は、赤坂桜づつみ公園として、桜の名所となっている



陶街道 53 次（22）砥部衝上断層の周辺に整備された公園



陶街道 53 次（25）神の森大橋